

# Delta Tips

NMDT\_0040

## データスレート編 (4)

NMR data processing software

# Delta

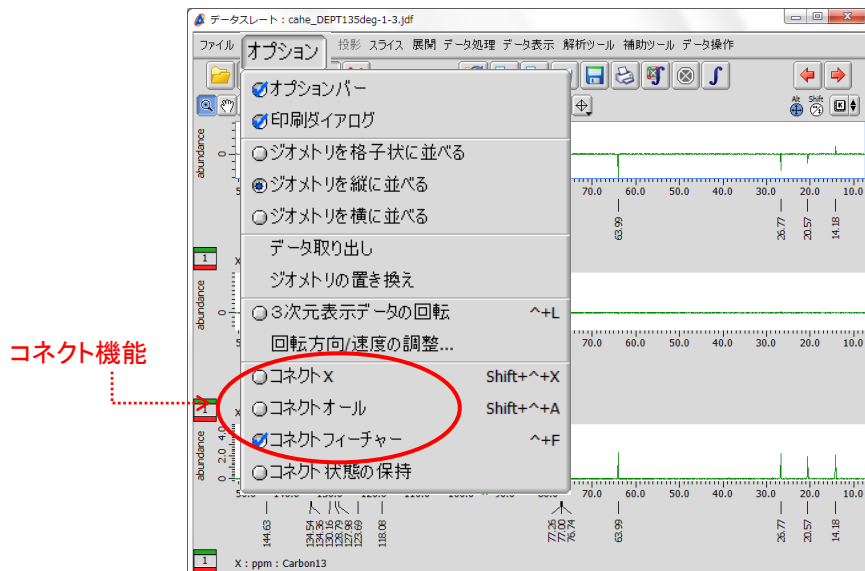
NMR Software  
v5.0



### < データ間の表示のコネクト機能 >

[データスレート]のコネクト機能を使用すると、複数のデータでX軸とY軸の拡大範囲を揃えたり、ピークマーカや積分などの表示/非表示を自由に指定することができます。

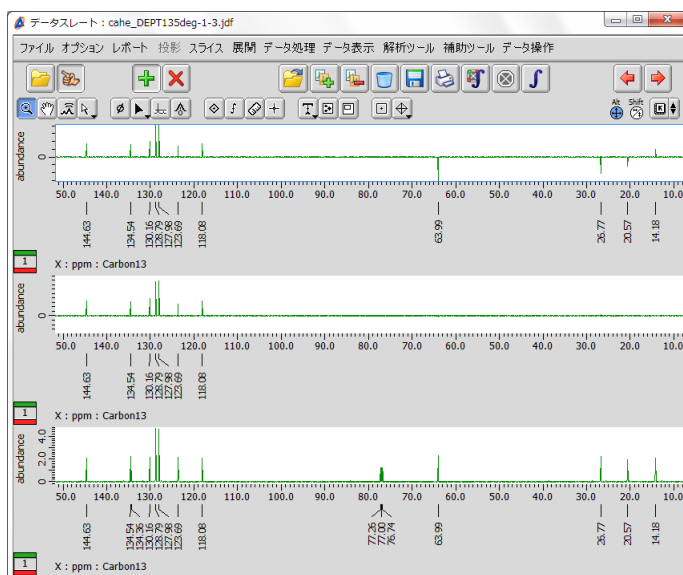
[オプション]メニューの[コネクトX], [コネクトオール], [コネクトフィーチャー]のそれぞれの機能について説明します。



### ① X軸の拡大範囲を同一にする [コネクトX]

[オプション]-[コネクトX]を選び [コネクトX] に✓を入れる。

⇒ 任意のデータをX軸方向に拡大すると他のデータのX軸も連動して拡大されます。

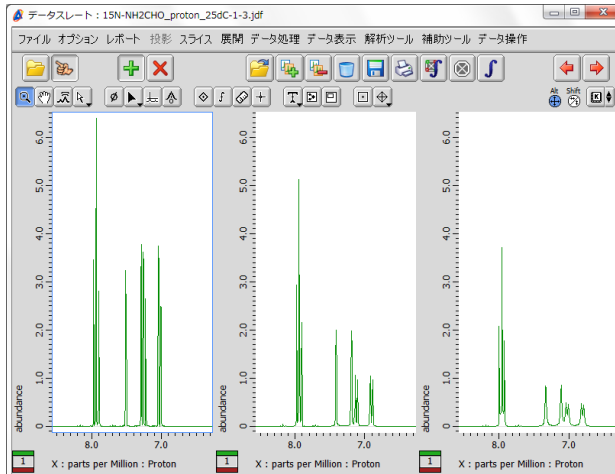


13CとDEPTスペクトルを  
同じ拡大範囲で表示した例

## ② X軸とY軸の拡大範囲を同一にする [コネクトオール]

[オプション]-[コネクトオール]を選び [コネクトオール] に✓を入れる。

⇒ 任意のデータを拡大すると他のデータのX軸とY軸が連動して拡大されます。



条件を変えた際の信号強度変化を見たいときなどに便利です。

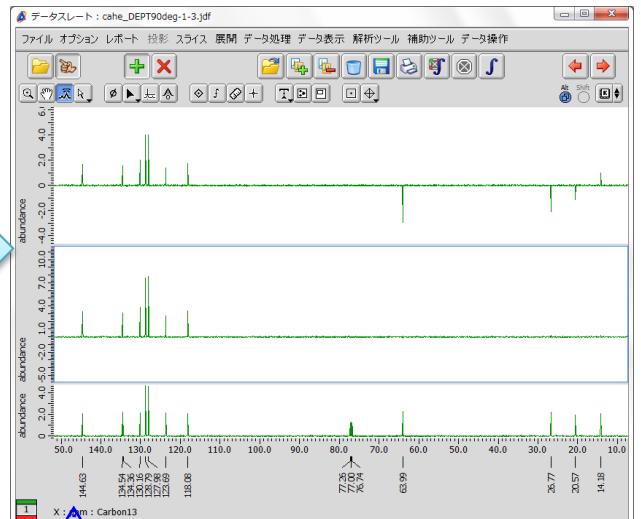
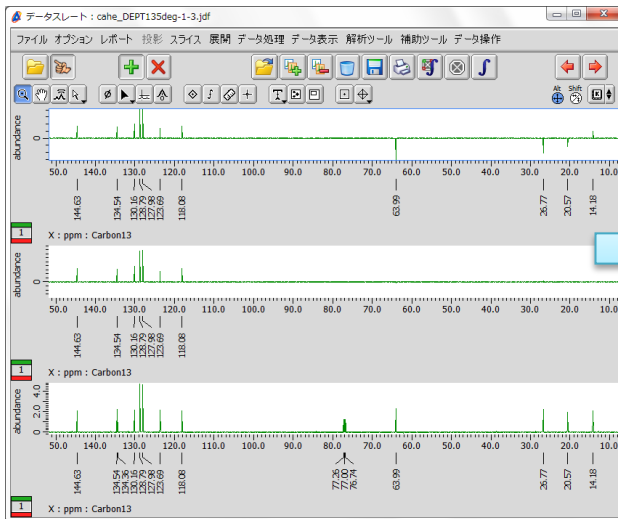
## ③ 表示項目の表示/非表示を切り替える [コネクトフィーチャー]

① [オプション]-[コネクトフィーチャー]で、[コネクトフィーチャー] に✓を入れる。

⇒ 表示項目の表示/非表示がデータ間で連動します。

② [オプション]-[コネクトフィーチャー]で、[コネクトフィーチャー] の✓を外す。

⇒ [コネクトフィーチャー]をオフにすると、任意のデータの表示項目を個別に指定できます。



ピークマーカーとX軸スケールの表示を個別に指定した例

★ ピークマーカーや積分などの表示項目をフィーチャー(feature)と呼びます。

★ ピークマーカーの表示/非表示にはショートカットキーが便利です！

**Alt** + **P**

★ スケールの表示/非表示にはショートカットキーが便利です！

**Alt** + **X** ( **Alt** + **Y** ) 2/2